

令和6年度 みーる平針 事業報告

1 事業概要

権利擁護の視点を念頭に、利用者に対して生産活動及びその他の活動機会を提供し、利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるような支援を目指した。生産活動においては、解体作業を主軸に取引先や関係機関との連携を強化し、請負う作業の内容や提供方法を適宜見直し、工賃の向上を目指した。年度の途中で取引先がトラブルに見舞われるという不測の事態があったものの、年明けには復旧し、次年度の安定した作業に繋がるよう土台を固めた。また「感染対策指針」や「業務継続計画」に基づき、安心して安全な事業所運営となるように必要な措置を講じた。

2 事業所運営

(1) 施設整備

令和6年度は主だった施設整備を実施しなかった。

(2) 職員構成

() 内は、非常勤職員の外数

管理者 ※1	サービス 管理責任者	目標工賃 達成指導員	職業指導員	生活支援員	事務員※2	計
(1)	1	1	1 (3)	1	(1)	4 (5)

※1 はあと平針の管理者と兼務

※2 本部の事務員と兼務

(3) 会議

会議名	内 容	時 期	構 成
法人運営会議	各事業所の情報共有と法人の運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各管理者
職員会議	作業面・生活面の支援、事業所の運営全般について連絡協議した。	毎月1回	全職員
ケース会議	利用者の支援上の諸課題（緊急対応）等に対する検討を行った。	随時	各担当職員
	全利用者を対象に、個々の支援目標の検討及びまとめ、就労評価を行った。	9月・2月	全職員
虐待防止及び 身体拘束等適正化 検討委員会	虐待の防止、支援力の向上を目的として、本委員会の規程及び方向性を確認し、事業所の課題を共有するとともに、全職員を対象としたセルフチェックも実施した。	6月	管理者ほか 委員2名

虐待防止及び 身体拘束等適正化 研修	合理的配慮の定義や目的などをもとに、 事業所内での支援を振り返って、より良い 支援を考える機会とした。	7月	全職員
ハラスメント 防止委員会	ハラスメント防止とその適切な対応を 図るため、ハラスメントの概要や法人内 規定と委員の役割を再確認した。また、 全職員を対象としたセルフチェックも 実施した。	10月	管理者ほか 委員2名
感染対策会議	名古屋市の指針等を参考にしながら、 事業所の感染症対策や業務継続計画(BCP) の見直しなどを協議した。	5月 9月 12月 2月	全職員
感染対策研修・ 訓練	感染症が事業所内で発生した場合を 想定して各対応を考察し、有事に備えた。	5月 9月 12月 2月	全職員

(4) 職員研修

月	研修名	場所	参加職員
5月	人材課題解消セミナー	オンライン	所長
7月	権利擁護研修 業務効率化研修	オンライン	サービス管理責任者
10月	BCP策定と机上訓練研修 タイムマネジメント研修	オンライン 北区	サービス管理責任者 目標工賃達成指導員
11月	対人援助技術研修 知的障害研修 労務管理研修	熱田区 熱田区 オンライン	職業指導員 職業指導員 事務員
1月	メンタルヘルス研修	中区	生活支援員

(5) 年間計画

月	行事	行事内容	防災
4月	花見	細口池公園へ出かけた。開花時期に 合わせて日程を変更し、きれいな 桜を眺めながら花見団子を食べた。	消防用設備点検
5月			避難訓練(火災)
6月		午後からの半日行事として実施。	消防設備自主点検
7月	小グループ体験活動	近隣で外食や買い物等を楽しんだ。 のんびりとした有意義な時間を 過ごすことができた。	
8月			
9月			情報伝達訓練、防災対策会議

			避難訓練（地震）
10月			消防用設備点検
11月	日帰りバス旅行	「小牧ワイナリー」で農園見学と コルクをはめる体験をした。恵那に ある銀の森では買い物と散策を 楽しんだ。	避難訓練（火災）
12月	仕事納め昼食会	一年の労いを目的とし、作業最終日 に普段と違う食事を提供した。食事 を複数用意し、各々が好きなもの を選んだ。数量都合で皆が望みどおり とはならなかったが、それも楽しみ の一つにしてもらえた。	
1月	初詣	仕事始めの日は天候が悪く、参拝を 中止とした。午後にぜんざいを皆で おいしく食べ、年初から皆さんの 笑顔が見られた。	消防用設備自主点検
2月			避難訓練（地震）
3月			防災対策会議
不定期	ティータイム	8月、10月、2月に実施。日々の 息抜きとして、行事などが無い月に アイスクリームやたい焼き、ケーキ などを提供した。開催の事前告知を しなかったため、サプライズとして 喜んでもらえた。	

※保護者会から防災物品（簡易トイレ、毛布、アルミブランケット、ランタン、多機能ラジオ）の寄贈があり、災害への備えを強化することができた。

(6) 健康管理

利用者の健康維持を目的に、体重測定を毎月行った。また、個々人の基礎疾患や健康課題、配慮事項について、情報交換の機会を保護者と積極的に持つようにした。これらにより、事業所内において、より安全かつ健康に配慮した支援をすることができた。

加えて、年度末には毎月の体重測定結果を基に、体格指数（BMI）を算出したグラフを各利用者に配布し、ご家庭での健康管理に役立てていただけるようにした。

3 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、それぞれの障害程度や特性に応じた支援を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。また、利用者のニーズに基づく個別支援計画を作成し、職業指導・生活支援という事業所のもつ支援機能を積極的に活用した。

職業指導においては、利用者個々の就労・作業適性について、それぞれの持つ能力や強み、支援が必要な領域について客観的な評価を行った。支援目標を達成するために作業指導を展開し、各利用者が主体的かつ積極的に参加することでやりがいを持てるように

した。活動を通して、就労を続けるうえで必要な社会性の維持・向上も目指した。

生活支援においては、活動のなかで個々の持つADL（日常生活動作）の維持・向上を目指した。また、心身の状況に応じた支援と並行し、利用者同士の心地よい関わり合いが持てるように働きかけ、一人ひとりが楽しく、より落ち着いた状態で過ごせるようにした。

(日課)

8:30 ～ 8:40	9:00 ～ 9:05	9:05 ～ 12:00 (10:20～10:30)	12:00 ～ 13:00	13:00 ～ 15:30 (14:20～14:30)	15:30 ～ 16:00
職員 朝 礼	朝 礼	作(休) 業(憩)	昼 食 休 憩	作(休) 業(憩)	清 終 掃 礼

※作業休憩は()内の時間帯にとった。

4 作業活動

主作業を解体とし、ガス部品組付け作業や飲料とゴミ袋セットの販売も展開した。また、工賃の向上を図るため、取引先との受注調整や関係機関を通じた営業活動も行った。

【解体作業】

廃棄する資材を解体し、素材ごとに仕分けて納品した。株式会社ルーツとの取引においては、引き続き電気メーターの解体を請け負った。先方都合により秋から冬にかけて、以前行っていた遊技機等の解体を請け負った。冬から新たな取引先に加わったNPO 法人ごとべえの会からは、テレビチューナーの解体を請け負った。いずれの作業も各利用者に適した工程を提供し、工具の適切な扱い方を支援し、作業の進め方など環境構成に着目して効率良く作業が進められるようにした。また、危険性への対策も講じ、安全面に配慮した。

【ガス器具作業】

昨年度より総数が落ちているものの、エフワイ成型株式会社から年間通して安定した受注を得た。ガス部品の組付けや部品検品などを、解体作業に続く活動として展開した。

【飲料販売】

メーカーから飲料を仕入れ、在庫管理や補充などを活動として提供した。定期的な作業機会とすることはできたが、気温の急変動や物価高による仕入れ値の上昇により昨年度より売上が伸び悩んだ。

【ゴミ袋セット販売】

各種ゴミ袋をパッケージした粗品を作って販売した。受注は一回に留まったが、今年度も天白区役所経由による受注をいただいた。

5 平均工賃

12,787 円／月（前年度：14,225 円）… 最高：16,702 円／月、最低：7,159 円／月

6 その他

(1) 体験実習、施設見学など

(延人数)

夏期ボランティア	高校生（中部善意銀行）	3名
体験実習	南特別支援学校高等部	1名
施設見学（本人）	在宅、南特別支援学校高等部	2名
施設見学（保護者）	南特別支援学校高等部	1名
施設見学（その他）	他法人就労継続支援 B 型事業所職員	1名
施設研修	名古屋市新規採用職員	6名

(2) 広報活動

法人ホームページ・X（旧ツイッター）、事業所紹介パンフレット及び事業所外掲示板の活用や季刊誌の発行などを通じて、地域社会に広く当事業所の活動を伝えられるようにした。

(3) 苦情解決

施設の福祉サービスに対する苦情の受付はなかった。

7 利用者状況

(1) 入退所（定員 20 名）

(月末時点の人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
利用実績	19.8	20.6	20.5	20.4	19.8	20.5	19.9	19.4	19.8	19.7	19.2	16.7

※ 利用実績の年間平均出席人数は、19.7名 ※ 開所日数：243日、利用率：92.8%

※ 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第2位以下切り上げ

(2) 年齢別

(令和7年3月31日現在)

性別 \ 年齢	~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~	計	平均年齢
	男性	0	1	0	1	3	0	3		
女性	0	0	1	2	2	1	2	3	11	43.3
計	0	1	1	3	5	1	5	5	21	42.7

※ 最高年齢は58歳（女性）、最低年齢は23歳（男性）

(3) 障害別

(令和 7 年 3 月 31 日 現在)

障害 性別	知的障害	ダウン症	自閉症	てんかん
男性	10	1	6	3
女性	11	1	1	2
計	21	2	7	5

※ 21 名中、重複障害者は 13 名

(4) 通所期間別

(令和 7 年 3 月 31 日 現在)

期間 性別	1 年未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年以上	計
男性	0	0	0	2	0	8	10
女性	0	0	0	0	2	9	11
計	0	0	0	2	2	17	21

※ 就労継続支援 B 型事業に移行する前の当法人事業所に在籍していた期間も含む。

※ 通所平均期間は 16.3 年、最長期間は 33 年（男性）である。

(5) 障害支援区分別

(令和 7 年 3 月 31 日 現在)

区分 性別	未判定	区分 3	区分 4	区分 5	計
男性	0	3	6	1	10
女性	0	5	5	1	11
計	0	8	11	2	21